



東京学芸大学 (東京都)

留学生対象の授業のほか、教育学、人文・社会科学、自然科学、芸術、スポーツなどの科目が受講でき、附属学校との交流授業、伝統芸能のワークショップなどを通して、日本の社会や文化を学ぶことができます。

■大学紹介

① 大学の特色及び概要

東京学芸大学は、新宿から電車で30分ほどの距離にある東京都小金井市に位置し、緑豊かで静かな環境にあります。

1949年に4つの師範学校を統合して誕生し、全国の教育界に多くの人材を送り出してきました。

1988年、教員養成課程に加えて、新たに教養系を設置し、教育以外の分野でも社会に貢献する幅広い人材の育成に努めています。

1996年、教科教育学を中心とする教育研究者養成を目的とした大学院連合学校教育学研究科（博士課程）を設置しました。

1998年、留学生に対する予備教育を含めた日本語・日本理解教育、修学上・生活上の指導・助言、日本語・日本文化研修留学生や教員研修留学生の研修プログラム等の業務を行うため、留学生センターを設置しました。



キャンパスの風景

② 国際交流の実績

(2023年10月1日現在)

海外の大学との協定： 66校

留学生数： 173人

(うち、日本語・日本文化研修留学生 9人)

海外の協定校で学んでいる本学学生数： 38人

③ 過去3年間の受入れ留学生数及び日本語・日本文化研修留学生（日研生）の受入れ実績

2023年：留学生数263人、日研生 9人

2022年：留学生数240人、日研生 9人

2021年：留学生数201人、日研生13人

④ 地域の特徴

小金井市は1958年10月に、東京都で10番目の市として誕生しました。都心から25kmという位置にあり、人口10万あまりの緑ゆたかで快適な生活のできる町です。

■研修・コースの概要

① 研修・コースの目的

(a) 主に日本事情・日本文化に関する研修

② 研修・コースの特色

(1) 日本事情・日本文化に関する研修
日本理解に関する科目として「日本理解」や一般学生との協働学習を行う「多文化共修科目」等を受講し、日本の文化・社会に対する理解を深めます。

(2) 日本語能力の向上のための研修
日本語レベルに応じて必要な科目を受講し、日本語能力を高めます。

(3) 専門研究
研修生の希望、個人研究テーマ、日本語能力等を考慮して指導教員が認めた専門科目（一般学生対象授業）を受講します。

(4) 文化交流
本学の学生や地域住民との交流を深め、地域の文化活動など交流の場に積極的に参加します。たとえば、附属小学校との交流、伝統芸能のワークショップなどを行っています。

(5) 個人研究
指導教員のもとで自分の研究テーマについて研究し、その成果を、研修修了時までにレポートにまとめます。

③ 受入定員

25名（大使館推薦15名、大学推薦10名）

④ 受講希望者の資格、条件等

日本語能力試験（JLPT）N2保持が望ましいです。

⑤ 達成目標

日本語を使用して、専門分野の資料を読んだり、レポートを書いたり、発表をしたりすることができるようになることが達成目標です。また、日本の文化について広く理解することも目標としています。修了レポートを作成し報告会で発表します。

⑥ 研修期間（在籍期間）

2024年10月初旬～2025年8月上旬

修了式は8月初旬を予定（2023年は8月2日）
（在籍期間：2024年10月1日～2025年8月31日）

早期帰国は認めません。

⑦ 奨学金支給期間

2024年10月～2025年8月

⑧ 研修・年間スケジュール

9月下旬～10月上旬：渡日（2023年は10月）

10月： オリエンテーション
秋学期授業開始
防災館見学

11月： 江戸東京たてももの園見学
図書館オリエンテーション

12月： 文楽鑑賞教室
附属小学校における交流

1月： 附属小学校における交流
研究テーマの構想発表

2月： 高校生との交流

4月： 春学期授業開始

5月： 中間発表会

6月： 歌舞伎鑑賞教室

7月： レポート提出

8月： 研究発表会、修了式

8月下旬：帰国（2023年は8月末）

⑨ コースの修了要件

下記の所定の科目を履修し、研究レポートを締め切りまでに提出して、その成果を指導教員が認めた留学生については、本学学長名において修了証書を授与します。

- 1) 必修科目…日研究生特別演習（秋）、日研究生特別研究（春）の2科目
- 2) 選択必修科目…日本理解、多文化共修科目から3科目
- 3) 選択科目…日本語科目、学部開設科目
上記1)～3)から合わせて14科目以上履修
（每学期7科目以上の履修が必要です）

⑩ 研修・コース科目の概要・特色

（1）研修・コース科目の特徴
附属学校との交流授業を積極的に行っています。また、留学生対象の授業の他、教育学、人文・社会科学、自然科学、芸術、スポーツなどの科目が受講できます。伝統芸能のワークショップなど、多様な文化体験に参加できます。

（2）研修・コース開設科目
I) 必修科目
日研究生特別演習（秋学期）……14週×100分
日研究生特別研究（春学期）……14週×100分

特別演習は、レポート作成のための講義、テーマ・構想発表会、地域の見学や地域交流、日本文化体験の活動などを主に行います。
特別研究は、主に指導教員の元で、レポート作成の活動を行います。日本文化体験活動、中間発表会、最終発表会を行います。



澁江高校との交流

II) 選択科目

- 1) 日本理解に関する科目（選択必修）
…各科目 14週×100分

日本理解 A～H 8科目

A, B(教育), C(人文), D(アニメ), E(宗教), F(経済), G(自然), H(書道)

※ 留学生を対象にした日本語で行う科目。

多文化共修科目 A～D 4科目

※ 日本人一般学生と留学生の共修科目で日本語で行う科目。（詳細は⑩(4)）

- 2) 日本語科目（選択）…各科目 14週×100分
日本語（会話、講読、作文、文法、漢字など）
日本語特別演習（マンガで学ぶ日本語、ドラマで学ぶ日本語、ビジネス日本語、小説など）
- 3) 専門科目（選択）…各科目 14週×100分
学部開設科目（教育学、人文・社会科学、自然科学、芸術、スポーツなど）



日本科学未来館見学

(3) 研修科目で地域の見学や地域交流等の参加できる科目及びその具体的な内容
必修の特別演習、特別研究で以下のような活動を行います。(予定)

- ・地域見学…江戸東京たてももの園、防災館、ビール工場見学、日本科学未来館など
- ・地域交流…附属小学校、都立高校との交流、
- ・日本文化体験…文楽鑑賞教室、相撲見学、歌舞伎鑑賞教室、貫井ばやし、和菓子ワークショップなど

(4) 日本人学生との共修がある科目及び具体的な内容

多文化共修科目 A~D (日本語)

A「多文化社会の問題解決プロジェクト」

在日外国人問題、難民問題、セクシュアリマイノリティ、障がい者問題など広く多文化多様性の問題解決をめざすプロジェクト学習

B「多言語社会とコミュニケーション」

日本の少数言語(琉球諸語、アイヌ語、日本語)、在日外国人(コリアン、ブラジル、難民の言語)、留学生の言語、日本の方言などを学びあいます。

C「世界の言語と文化」

世界の言語についてのプロジェクト学習

D「世界の民族と文化」

世界の民族音楽を実際に体験しながら学びます。

⑪ 指導体制

日研生は、国際交流/留学生センターの所属となります。国際交流/留学生センター所属の教員が指導教員として履修や研究の指導をします。

小西 円(2023年度日研生担当教員)、秋庭 裕子、岡 智之、許 夏玲、有澤 知乃、伊能 裕晃



研究レポート発表会の様子

■ 宿 舎

渡日時に入居できる宿舎は以下の単身室の宿舎となります。家族連れでの留学の場合は民間アパートを自分で探すこととなります。

○宿舎名

東久留米国際学生宿舎：単身室16室

○宿舎費・設備・通学時間等

東久留米国際学生宿舎単身室：4,700円/月
通学時間：西武線約1時間

* 上記金額には光熱水費等は含まれません。

○宿舎の設備・備品

ベッド、机、椅子など



附属小学校での交流



江戸東京たてももの園見学

■ 修了生へのフォローアップ

フォローアップの実績

修了生が国費研究生としての留学などを希望する場合、日研生担当教員や元指導教員など留学生センター教員が相談に応じています。2016年度は1名、2017年度は1名、2021年度は1名の元日研生が国費留学生として本学に入学しています。

また、中国(北京)、韓国(ソウル)、タイ(バンコク)にて、修了生同窓会を開催しました。

東京学芸大学修了留学生ネットワーク

<https://www.facebook.com/GisecTokyoGakugeiUniversity>

■ 問合せ先

<担当部署>

東京学芸大学学務部 国際課 留学生支援係

住所：〒184-8501

東京都小金井市貫井北町 4-1-1

TEL： +81-42-329-7763 (直通)

FAX： +81-42-329-7765

Email： ryuugaku@u-gakugei.ac.jp

<ウェブサイト>

東京学芸大学ホームページ：

<https://www.u-gakugei.ac.jp>

東京学芸大学日研生ホームページ：

<https://www.u-gakugei.ac.jp/~gisec/program01/index.html>